

I 事業の概要

本校は、龍泉洞から盛岡方面へ車で30分の山間部にある。古くは林業が盛んで、浅内駅は岩泉線の終着駅だった時もあり、駅周辺は大変な賑わいであった。その浅内地区を見渡せる高台にある浅内小学校。地区のみなさんが、「学校は子供たちを育てるところ。日当たりが良いところでのびのび育てたい。」との思いから、私財を提供して作り上げた。創立139年を迎えた今年度、閉校となる。

(1) 事前学習

ア 夏休みの課題として、保護者等身近な人に東日本大震災当時の様子や行動、考えたことについて聞いてくる。

イ 身近な人に聞いてきたことを交流し、列車活用スクールで知りたいこと、聞いてみたいことを交流する。

(2) 震災学習列車

(3) 事後学習

ア まとめの学習、感想発表、学習発表会に向けて発表練習

イ 地域に発信・深める学習

(ア) 学習発表会において、列車活用スクールで学んだことを発表する。全体の行程を説明しながら、自分の作文をそれぞれが読む。

(イ) 学習発表会での発表途中に、「台風10号について、行動や思ったこと。私たちの発表の感想やできること」を会場のみなさんにインタビューする。

(4) いわての復興教育実践発表会にむけて

ア 台風10号災害についてまとめの学習

イ 東日本大震災・復興学習のまとめの学習

ウ いわての復興教育発表会に向けて発表練習

エ いわての復興教育発表会での発表

II 取組の概要

(1) 事前学習

ア 東日本大震災当時の記憶が無いことから、多くの人々が家族のため、地域のために行動した様子を知らせたいと考え、夏休みの課題として、保護者等身近な人に東日本大震災当時の様子や行動、考えたことについて聞いてくる活動をした。

イ 他者の考えも聞き、自分の学習を深め、東日本大震災の学習の目的を確実なものとするため、身近な人に聞いてきたことを交流し、震災学習列車活用スクールで知りたいこと、聞いてみたいことを交流した。

(2) 震災学習列車

ア 列車内

ポイントで停車をしながら、三鉄職員の二橋さんから説明を受けた。普代駅では「あの防波堤の屋根が曲がってますよね。あそこまで波が来たのです。」「ここが命の境目。こちらは助かり、こちらは被災しました。」「この公園は中央がくぼんでいますよね。津波が来た時、波を和らげ時間を稼ぐためです。」等、色々な説明を聞くことができた。トンネルの途中で停車し、照明が消された。「この中を線路伝いに歩いて避難しました。」との説明もあった。全体を通して、子供たちは熱心にメモをとっていた。



イ 島越駅見学

島越駅は、震災メモリアルパークとなっていて、津波の高さの鉄塔や当時の駅舎の階段、宮沢賢治の詩碑を見学した。

ウ 田老防潮堤、震災遺構等見学

田老駅で下車をし、バスに乗り込んだ。田老道の駅でガイドの元田さんが乗車をした。震災遺構である旧田老観光ホテルに行き、震災遺構についての説明を受けた。非常階段を上り6階へ行き、その窓から撮られた津波映像を視聴した。映っていたおばあさんについては、「寒いから家に上着を取りに戻った。まだ発見されていない」と説明を受けた。防潮堤へ移動し、説明を受けた。津波直後は、「崩れた防潮堤の中はスカスカだった。」と聞き、子供たちは大きな驚きを受けていた。防潮堤から見える球場については、「球場を作るのは反対だった。しかし、元気な声が聞こえてくるとこれでよかったとも思う」と元田さんはおっしゃっていた。自分の家族も被災した元田さんの話に子供たちも真剣に聞き、命の大切さを感じた様子であった。



(3) 事後学習

- ア 学校でまとめをした。
- イ 翌日、抜き打ちの避難訓練を実施した。体育館で遊んでいる途中に地震が起き、避難するという設定で実施をした。高学年は中央に集まり頭を隠し、その後避難をした。他の子供達は、自分で周りを見て同じように行動した。
- ウ 震災学習列車活用スクールで学んだことを学習発表会で発表した。全体の行程を説明しながら、自分の作文をそれぞれが読んだ。
- エ 学習発表会での発表途中に、台風10号について当時の行動や思ったこと、子供たちの発表の感想等を会場のみなさんにインタビューした。

(4) いわたの復興教育実践発表会

- ア 震災学習列車で学んだこと、台風10号災害に

ついて学んだことのまとめをした。

- イ 自分が学んだことや感じたことを互いに交流することで学びを深め、学びを伝えることを目的として発表練習に取り組んだ。
- ウ 当日、緊張しながらもやり終えた充実感・達成感を味わうことができた。
- エ 学びのまとめとして、今後自分がどのようにしていくのか(していきたいのか)交流した。
- オ 参加した児童生徒の感想
 - ・地域のおばあさんは浸水して家を壊すことになったそうです。道路も通れなくていつもの生活に戻れるか不安だったそうです。思った以上の深刻さに驚きました。災害に対する備えをしておくことが大切だと思いました。
 - ・普代の水門を見てあんなに高いのにそれを乗り越えて、屋根を壊してきたことに津波の威力は凄いなと思いました。やっぱりすぐ逃げることやしっかり準備することが大切だと思いました。

III 取組の成果と課題

(1) 成果

- ・子供の中では、東日本大震災は記憶になく、歴史上のものとなってきている。実際に被災地を訪れ、説明等を聞くことはとても貴重且つ重要なことである。
- ・岩泉町台風10号災害と合わせながら、地域の防災と自分たちの行動について考えることができた。
- ・父母だけでなく、地域の方々に見守られて生活していることも感じる事ができた。
- ・多くの子供が発表する機会を得たことで、自分や仲間の学びを確認し、深めることができた。

(2) 課題

- ・年度途中の事業であったことから、時間を生み出すことに苦労した。総合的な学習の時間の見直しを行い捻出した。
- ・今後、自分で身を守る具体的な行動を身に付けさせていくことが必要である。